

第2日目 2023年9月2日(土)

午後の部 14:00~16:30

ラウンドテーブル

〈学会事業としての〉NFRJにいま何が求められるのか？

オーガナイザー	保田時男 (関西大学)
	西村純子 (お茶の水女子大学)
	斉藤知洋 (国立社会保障・人口問題研究所)
討論者	久保田裕之 (日本大学)
	田淵六郎 (上智大学)

【企画趣旨】

学会事業として実施されているNFRJ（全国家族調査）は、準備期間を含めれば事業開始から約30年の年月が経過している。NFRJ98の一次報告書によれば、当初のNFRJの具体的な目的は「質が高くかつ信頼できるデータを収集すること、構築したデータを共同で利用すること、そしてデータ構築を継続すること」（一部略）とある。NFRJの立ち上げ期にはこの企図は広く共有されていたものと思われるが、現在ではその意義は必ずしも明確ではない。家族社会学にとって有効なデータは他にも多く蓄積されるようになったし、かつては困難であった個票データの二次分析もいまではあたり前となった。一方で、調査の回数を重ねるにつれて（NFRJ18が第4回調査である）、継続的なデータ構築の重みは増しているとも考えられる。NFRJ28の準備期間が視野に入ってくる現在、学会事業としてNFRJを継続することにはどんな意味が求められるのか（あるいは求められていないのか）、ざっくばらんな意見交換の場としてラウンドテーブルを設けたい。本ラウンドテーブルでは、オーガナイザーがNFRJの経緯と、学会事業としての継続について論点となりうるポイントを簡単に紹介したうえで自由な議論を行う。これまでNFRJと積極的に関わってきた方も、そうでない方も、学会事業としてのNFRJについていま一度考える機会を持っていただきたい。